
特集 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の現状と対策

【巻頭言】

池田 康 将 (徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野)

久保 宜 明 (徳島大学大学院医歯薬学研究部皮膚科学分野)

2019年12月に中国で発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) はまたたく間に世界中に流行しました。変異株が続々と出現し、症状の重症化や感染力の増強と変化し、本邦でも第1波から第5波の後、2022年初めより第6波から第8波と大きく感染が拡大しました。徳島県の医療界も多大な影響を受けた3年間だったと思います。2023年5月8日には2類から5類感染症に移行することになりますが、油断ならない状況がしばらく続くことになろうかと推測します。

このような状況を鑑み、今回の徳島医学会ではCOVID-19についての合同シンポジウムを企画いたしました。本シンポジウムでは、徳島県内でCOVID-19診療を牽引されているエキスパートの先生方に大変お忙しい中、シンポジストをお引き受けいただきました。この

場をお借りし厚く御礼申し上げます。

徳島大学病院 感染制御部 部長の東 桃代先生にキックオフとしてオーバービューをお話いただき、徳島県保健福祉部 感染症・疾病予防統括監の鎌村好孝先生には徳島県の現状と対策、救急集中治療医学分野 教授の大藤 純先生には重症コロナ診療の現状、博愛記念病院 院長の大串文隆先生にはコロナ後遺症外来の現状と課題についてお話いただきました。担当分野から皮膚科学分野の仁木真理子助教と薬理学分野の船本雅文助教がそれぞれCOVID-19関連の皮膚・心疾患について発表いたしました。

本シンポジウムが徳島県の医療界にとって今後のCOVID-19対策の一助になれば幸いです。